

2018.10.6 中川 徹

人類文化の主要矛盾とその解決の方向 「自由」vs「愛」と「倫理」

貧困問題の根本にある大きな矛盾に気づく

(2015-2016年)

自由と愛を動機づけ、調整できるのは倫理

(2017-2018年)



『TRIZホームページ』中川徹 編集

<http://www.osaka-gu.ac.jp/php/nakagawa/TRIZ/>

科学技術分野での研究開発の方法を研究してきた。

1997年～：TRIZ(発明問題解決の理論)を導入・普及させ、
分かりやすく有効にしたUSIT(統合的構造化発明思考法)を開発し、
創造的問題解決のための新しいパラダイム「6箱方式」を開発した。
各種の創造性技法、問題解決技法を統合したもので、広い分野で使える。

実際の社会的な問題に適用することを試みた。

「日本社会の貧困」をテーマに選んだ。

藤田孝典著『下流老人』(2015)を、「見える化」した。

読者レビューの根底に、「自己責任論」と「助け合い精神」との対立を見た。

根源には、「自由」と「愛」の葛藤・対立(=矛盾)がある、と認識した。

「自由」も「愛」も、現代文化の中心にある重要な目標であるが、
人々の理解、現実の諸問題、そして思想において、両者が対立する。
根源の思想のレベルで、この問題を理解・解明する必要がある、と認識した。

以下のような「基本仮説」を得た。

人類文化は「自由」を第1指導原理とし、「自由」の伸長を主要目標とする。

「自由」 = 「自分で判断し、自分で行動し、生きる」こと

「自由」同士が対立し、必然的に競争が起き、「競争に勝つ」努力をする。

「競争社会」では、「勝者」と「敗者」の「格差」が拡大していく。

「社会的勝者」による「支配」が行われ、新しい「社会ルール」が作られ、「保守」される。一方、支配された状況からの「解放」と「革新」の運動が起り、逆転する。

人類文化における「革新」が「自由」の意義である。

第1指導原理「自由」の本質 = 「自分(たち)の幸福・利益を追求する」

人類文化は「愛」を第2指導原理とし、「愛」の拡張・普遍化を主要目標とする。

「愛」 = 「各人がその子を愛し、家族・隣人を愛して、助け守ること」

「愛」は、「助け合う」、「与える」、「協力する」。

「愛」は「調和」を求め、(自己や)一部の「自由」を抑制して調整する。

「愛」は、多様性(多様な「自由」)を尊重した「協調」を見出す(目指す)。

もう一つの「愛」の原形は、性愛・恋愛・結婚。

「愛」は「身内」を守るために、「外部に対抗する」性質がある。

「身内」を守ろうとする「愛」は、一つ上の社会レベルで「対立」を作り出す。

「愛」は、弱者の救済、「格差」の是正による、社会「革新」の運動を進める。

第2指導原理「愛」の本質 = 「みんなの幸福・利益を追求する」

「みんな」として意識されている範囲が問題。普遍化には長い過程を要する。

人類文化の主要指導原理「自由」と「愛」の間に、対立・矛盾がある。

「自分(たち)の幸福・利益」(「自由」と「みんなの幸福・利益」(「愛」との対立)。

ある人の独自の判断と行動(「自由」)を、別人の「愛」が止めようとする。

「愛」が「助け合い」・「協力」を求めるときに、「自由」が協力を拒否する。

「自由」が「勝負」「戦い」で決着をつけようとするとき、「愛」は「平和的に」避けようとする。

「社会的勝者」が作る「社会ルール」に、「愛」が異議を申し立てる。

「抑圧からの解放」の運動(「自由」)に、「愛」が反対する。

「愛」が「身内」の団結を求めて、メンバーの「自由」を束縛する。

「愛」の「身内意識」が、外部の人の考え方・行動(「自由」)を排除する。

人類文化は「倫理」を第0指導原理とし、その深化を主要目標とする。

「倫理」 = 人の内面の根底にあり、善／悪の考え方・人生・社会の指針を示すもの。

「倫理」は、後天的に(歴史と社会に依存して)教えられるものであるが、

その根底に先天的な「内心において善／悪を見分ける心の能力」(「良心」)がある。

この先天的能力は、「生き物としての進化」に基づくもの。

「倫理」は「自由」と「愛」の両方を動機づけ、「自由 vs 愛」の主要矛盾を調整できる。

「倫理」自身の理解が人類文化の歴史の中で発展してきている。

第0指導原理「倫理」の本質 = 「すべての人に幸福追求の権利がある」

明示的な「倫理」の中核概念が、「基本的人権」の概念である。

個人の心の中で「倫理」が適切に理解され、実践されることが重要。(社会制度・実践の基礎)

不十分な「倫理」(の理解)は、「自由」の精神・実践を損なう。(基本的人権、本質的平等)

不十分な「倫理」(の理解)は、「愛」の精神・実践を損なう。

人類文化の主要矛盾：

「自由・愛・倫理」の構造 (個人(間)のレベルを中心に)



「自由」vs「愛」が人類文化の主要矛盾であり、歴史を通じて、いまだ解決できていない。

主要矛盾を解決する鍵は、「自由」と「愛」を動機づけ、調整できる「倫理」である。

結論として 理解したこと

人類文化は、「三つの主要指導原理の全体系によって導かれる

全体的な方向づけ」(これが「善」)に沿って常に前進するべきである。

すなわち、(第0指導原理)「倫理」を深化すること、

(第1指導原理)「自由」を伸長すること、

(第2指導原理)「愛」を拡張(普遍化)すること、を共に進める。

その途上において、人類文化はさまざまな矛盾に直面するであろう。

特に、上記3指導原理の一部だけに固執・強調するのは正しくない。

主要指導原理に内在する「自由」vs「愛」の矛盾が顕在化・激化する。

それらを解決する方向づけは、

主として 第0指導原理「倫理」を鍵として見出されるであろう。

「倫理」は「自由」と「愛」の両方を動機づけ調整できるものだから。

われわれがこれらのことを探り深め、その知見を世界に広め、

すべての領域のすべての課題に適用していくことが、極めて重要・有意義である。